

「治療に生かすための歯の観察」における 1 つの到達点

歯界展望別冊

「Single Crown Provisional Restorations」

DVD ビデオ付

—天然歯形態の観察から始まる修復治療—

CAD/CAM の出現なども一因となり、近年の歯科材料の発展には凄まじいものがある。そして、材料の発展に伴って、技術の面でもさまざまに進歩してきている。しかし、材料や技術は進化していても、機能回復、審美性の再現、構造力学に対する安定性や生物学的調和など、修復物製作の目的に変化はない。

そもそも患者の口腔内に個人差はあるが、患者の満足が得られる修復物製作の方針として、何らかの基準は必要である。そこでは、人間の口腔内に本来あるべき天然歯から学んだ形態学が生かされるべきであろう。もちろん、その形態は隣接歯および歯周組織、対合歯などと調和する必要がある。口腔内での治療の目的に合った修復物を装着し、長期にわたって機能させることは、歯科治療における重要な課題の 1 つである。

●天然歯観察の重要性と手法を知る

本書は、天然歯の形態観察に基づいたプロビジョナルレストレーションを口腔内に装着し、その経過を観察しながら形態修正を行っていくことで、理想的な修復形態を模索するということに重点を置いている。患者の修復治療に際し、修復物の形態が力や細菌に対して配慮されているものかどうかは、模型上で判断できるものではない。また、ほかに顔貌や口唇との調和、口腔内における歯肉縁下からの立ち上がりや軸面形態の清掃性などについては、生体内で経過が観察されるべきである。

本書の Part 1 では、基準点、カントゥアガイドライン、スリープレーンコンセプトなど、基準となる概念がわかりやすく明確に整理されている。

Part 2 では、天然歯形態の観察が非常に細かくなされている。本項で指摘されている各事項に注意することで、手技によって製作されるという不確定な要素を持つ修復物に対し、失敗の少ない形態再現が可能となるであろう。

さらに、ここで述べられている「1 本が正しく修復できるレベルでしか全顎は修復できない。全顎が修復できるレベルでしか 1 本は正しく修復できない」という言葉に、筆者はとても重みを感じた。著者である桑田正博先生のこれまでの経験を基にした非常に的確な言葉であり、まさしく歯はすべての関わり合いのなかで審美、機能、構造、生物学的調和が成り立っているが、同時に修復物製作においては 1 本の歯が持つ要素が理解され、表現される必要があるという意味であろう。筆者も、周辺歯と調和していない歯には意味がないし、1 本の歯がうまく製作されていなければ全体の歯列や咬合平面が生きず、意味をなさないと思う。

●形態修正のDVDを利用して理解を深める

Part 4 では、プロビジョナルレストレーションでの形態修正の前提として、「作業姿勢と指使い」など技工作業の基本となる内容が理論的に述べられている。手指に委ねられる部分が多い歯科技工作業で押さえておきたいポイントが丁寧に解説されており、経験の浅い読者にとっても親切な内容であろう。

形態修正については、本書では写真と説明で述べられると同時に、付属のDVDで見ることができる。DVDでは、桑田先生の形態再現の考えについて、知識の部分のみならずオリジナルの表現法まで読者に明確に伝わってくる。



■西川義昌・桑田正博 編著

■A4 変形判 / 150 頁

■DVD ビデオ / 約 31 分

■定価：本体 5,500 円＋税 5%

■医歯薬出版株式会社 刊

最後の Part 5 では、症例をととしてプロビジョナルレストレーションの考え方が具体的に整理されているため、明日からの臨床につなげやすい。

* * *

本書はプロビジョナルレストレーションをテーマとしているが、近代歯科補綴学における巨匠といわれる歯科医師たちと仕事をされてきた桑田先生が、これまでの蓄積を基にした考え方を惜しみなく披瀝されており、多くの歯科技工士にとって臨床全体に役立つものである。また本書が歯科技工士の手だけで記されたものではなく、西川義昌先生という類まれな歯科医師と執筆されている点も、歯科医師、歯科技工士の両者にとって読みごたえのある本となっている理由であろう。

最後に、本書をより深く理解していただくため、もう 1 冊紹介したい。西川先生、桑田先生と、井出吉信先生による歯科技工別冊『Biological Crown Contour』である。この 2 冊を読むことで編著者の考え方を全体を理解でき、読者の臨床に多くの科学的知識がもたらされるだろう。また、そこから表現される形態を修復物へ反映させることで、患者に多くの恩恵を与えられると思われる。(大阪府茨木市・デンタル・クリエーション・アート/西村好美)